

社会技術研究開発センター (RISTEX)

～社会との協働が生む、社会のための知の実践～

JST・社会技術研究開発センターは、21世紀の人類・社会が直面する重要な問題(環境・エネルギー、少子高齢化、安全安心、医療・介護など)を解決するために役立つ成果を創り出すことを目指して研究開発を行い、生み出される成果や技術を、社会で実際に有効に活用できるものとして還元することにより、人々の生活を幸福で豊かにすることを目指しています。

震災直後の2011年5月には「東日本大震災対応・緊急 研究開発成果実装支援プログラム」を始動し、6件のプロジェクトが災害復旧・復興に即効性のある研究開発成果を被災地域に実装する活動を行いました。

また、「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」、「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」などの研究開発領域にも被災地を活動拠点とする研究開発プロジェクトがあり、精力的に活動を展開しています。



■ 塩害農地で菜の花を栽培しながら農地を修復、復興のシンボルに

「東日本大震災対応・緊急 研究開発成果実装支援プログラム」 実装責任者：中井 裕(東北大学大学院 農学研究科 教授)

このプロジェクトは、東日本大震災で津波被害を受けた被災農家が農業を続けながら農地を修復できるよう、塩害に強いことで知られる菜の花(アブラナ科作物)の栽培を進め、復興を支援しました。

宮城県内360カ所の農地の土壌調査を基に、農地の塩分濃度に適したアブラナ科作物の品種を選び、雨水による土壌の修復を行いつつ、栽培。育てた菜の花は5月に満開となり、黄金に輝く農地は復興のシンボルとして大きな反響を呼びました。この取り組みは仙台市の復興計画の中に明記され、プロジェクトの趣旨に賛同・協力する企業が増加。育てた菜の花は切花・食用として販売したほか、搾油してバイオディーゼル燃料としても実用化しました。

現在も活動を継続しており、今年4月には東北大学内に「東北復興農学センター」を設立、継続的な支援と復興を担う人材の育成を目指しています。